

— 現状の研究発表をもとにして（食物学） —

郡女大家政 ○金子憲太郎、石沢、倉沢、佐原、芳賀、山田、斎藤、

滝田、角野(幸)、平野、広井、近藤、角野(猛)、庄司、

目的 関口らは家政学に人間守護の概念を導入し、それに続いて前回は、山田らが食物学の価値体系化を進めた。さらに今回は、現状の家政学（食物学）における多くの研究を捉え、その内容及び実態を上記価値（人間守護導入）の点より探索する。

方法 家政学における研究の内容を本家政学会（第30・31回）の研究発表要旨集から捉え、そこにみられる研究の内容を目的別に分類した。また、食物学を構成する食品学・栄養学・調理学等を専門別にみて、その各専門の頻度数を捉えた。さらに、それら各専門の研究の中で、より食生活に近い研究等を応用的研究（Ⅰ）、基本的要素を追求している研究等を基礎的研究（Ⅱ）とし若干の考察を行った。

結果 研究発表の内容を研究目的別に分類したところ、食物の文化的機能を追求する研究が多かった。また、発表内容を食物学を構成する専門別に大別した結果、第30回は食品学・調理学と考えられる研究、第31回は食品学と考えられる研究が多かったが、衛生学の分野と思われる研究は兩年ともきわめて少なかった。さらに、これらの研究を基礎的研究に大別した結果、食品学・調理学などは前者、栄養学は後者に属する研究が多かった。しかし、衛生学は基礎的・応用的研究の内容の研究がほぼ同数であった。さらに今後は、この研究をもとに本題の目的に迫り家政学の新しい研究方法の探索をこころみたい。